

一 次の――線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 世間にルイジ品が出まわる。
- ② 準備運動をニューネンに行う。
- ③ 中学では、ブンブ両道をめざす。
- ④ ケンブンを広めるために旅行する。
- ⑤ スジヨウのわからない人物。

二 次の空欄に適する漢字を答えなさい。解答欄には例文に出てきた順に書くこと。

- ① 飛んで  にいる  の虫 【自分から進んで、危険にかかわり合うこと。】
- ② 一寸の  にも  分の魂 【小さく弱い者にも、それなりの意地があるということ。】
- ③ 壁に  あり障子に  あり 【隠し事はとかく漏れやすいから、注意せよということ。】
- ④  転び  起き 【何回失敗してもあきらめず、勇気を出して立ち上がること。】
- ⑤  の顔も  度 【温和人でも、ひどいことを何度もされれば怒るということ。】

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ある日、ドイツからきている留学生とはなしをしていたとき、おもしろいことに気がついた。というのは、かれが、自分のベルリンの家の間どりを説明しているときに、二階の寝室のひとつから、その小さなバルコニーへでるガラスばりの「ドア」のことを、「フレンチ・ウィンドウ」とよんだのである。日本ならさしづめ、縁側の「ガラス戸」にあたるようなものだ。

ドイツは寒い北国地方に属するから、ふつう、一階の表と裏の出入口の扉以外には、戸外にでる戸というものはない。ところが、ヨーロッパでも南のほうへゆくと、二階の居間や寝室には戸外にバルコニーがつきだしていて、そこに、バルコニーへでるための「戸」がついている。これは、北国ドイツからみたら、うらやましくも文化的な装置にみえたにちがいない。したがってそれに「フレンチ・ウィンドウ」というよび名をあたえて、自国でもとりいれているのである。

しかし、ここでふしぎなことは、それをウィンドウとよんでいることだ。なぜ「フレンチ・ドア」とよばないのだろうか。私たちの感覚からすると、通常、縁側と庭とのしきりは「戸」であって、窓ではない。戸と窓とのちがいは、戸は人がでいりできるもの、窓はでいりできないもの、というようにかんがえている。ところがドイツでは、バルコニーへでる開閉のしきりは、 Y  なのだ。そうすると、ドイツ人は、「 Z 」からではいりするものなのだろうか。

A 、<sup>①</sup>もうひとつおもしろいものに、ガラス窓の外側について、光をさえぎったり、防犯の役をはたしたりする、英語でふつうシャッターといわれるものがある。それがシャッターといわれるだけなら、べつにどうということはないのだが、これにはもうひとつ俗称<sup>※</sup>があつて、それは「ベネチアン・ドア」だ、というから話がややこしくなる。それが窓についていようと、さきほどのフレンチ・ウィンドウについていようと、いずれのばあいにも「ベネチアン・ドア」なのである。「ベネチアン」という形容詞がつくのは、たぶん日光のつよい地中海のベネチアでも発達したものだからであろうが、それはともかく、こ

では、それが窓についていても、ドアとうけとられる感覚が、かんがえてみるとおもしろい。そうすると、<sup>②</sup>欧米では、ウィンドウとドアとのあいだに、いったいどういう区別があるのだろうか。

それは、こういうふうにかんがえると、あるていど、なつとくがいくかもしれない。というのは、建物をひとつのシェルターとみたたときに、戸と窓とは、いずれも開口部にはちがいないが、その開口部は、一方は「壁」であるのにたいし、他方は「穴」である。<sup>③</sup> B 戸と窓とは、それぞれ「壁」と「穴」との変形であつて、発生的にはぜんぜんべつのものだ、というようにかんがえるのである。人類がまだ洞窟生活をおくっていたころ、その洞窟の入口は、頑丈な石や木などでおおつて、外敵の侵入を防御したであろう。それらの石や木は、要するに壁の変形もしくは代替物なのである。一方、洞窟の上部には、常時、採光や換気のために、壁を穿つた小さな穴が必要であつた。そうすると、壁にかまれた洞窟には、ひとつにはおおうものとしての、もうひとつはうがつものとしての二つの開口部が必要になる。そのおおうものを戸とかんがえ、うがつものを窓とかんがえるなら、戸と窓は、一方は「壁」であり、一方は「穴」である、ということも理解されよう。こんなふうにみてくると、戸と窓とは \* に異なったものかもしれないのだ。

このように戸やドアというのは、あけしめすることはできるが、しかし基本的には外界をシャット・アウトして内部世界を防御する、いわば「動く壁」のようなものである、とかんがえ、それに反して、窓というのを、たとえそこにガラスがはまつていようと、格子がはまつていようと、要するにそれは外にむかつてひらかれた「穴」であるとかんがえれば、欧米のすまいにおける戸や窓というものも、あるていどなずける。たとえば、欧米の住宅の玄関のドアというものは、たいてい頑丈な櫺の木かなにかできていて、あけるとギィーと音がするような重量感のあるしろものだ。ドアには通常ガラスなどははまつていず、C、訪問客をたしかめる覗き穴か小窓があるにすぎない。日本の住宅の玄関のように、ガラスのはまつた格子戸などというような、ある意味でしやれた、またある意味でひよわなものは、<sup>④</sup>そこにはみあたらない。裏口とてもおんなじだ。

は、せいぜい光をとりいれる窓であつて、戸というような「壁」的機能をもつものではない。欧米流に戸とよべるのは、いまいった雨戸である。しかし日本では、縁側にはまつているのは、みなこの「ガラス戸」という名の戸である。とすると、その外側の雨戸をふくめて「戸」は二重にあることになるのであろうか。

ガラス戸のものは障子である。あかり障子の和紙がガラスにかわつただけであるから、これは厳密にはガラス戸ではなく、ガラス障子というのが正しい。それを私たちはなんとなく「ガラス戸」とよびならわすようになってしまった。障子が「戸」になつてしまつたのである。障子はさきにものべたように、室内のまじきりとして発達したものであつて、これを室外とのしきりにするためには、その外側にもう一枚、戸がいるはずだ。それが雨戸であるとかんがえれば、日本のすまいも、シェルターとしての首尾がととのうことになる。じつさい、雨戸は開放的な日本のすまいの伝統的な戸の流れをうけつぐものである、といつていいものだ。そうすると、その名称はともあれ、ガラス障子と雨戸とが両方あつても、すこしもおかしくないのである。むしろ、雨戸がなく、ガラス障子だけだったら、そのほうがシェルターとしてのすまいをみるときは、不完全といえるのではないか。

(上田 篤「日本人とすまい」による)

- ※ フレンチ……フランスの。
- ※ 俗称……世間で通用している正式でない名称。
- ※ ベネチアン……ベネチアの。(ベネチアはイタリアの都市)
- ※ シェルター……避難所。
- ※ 穿つ……穴をあける。
- ※ ジャパニーズ……日本の。

それに反して、バルコニーに通ずるフレンチ・ウィンドウというのは、たいてい総ガラスばりにできている。それをしめきつているときには、へやの重要なあかりの役割をはたす。バルコニーは戸外といつても、道路とちがつて、ふつうそこから人がやってくることはないから、その構造はきやしゃなものでもないのだから。とはいふものの、バルコニーをつたつて泥棒がおりる可能性がないではない。そこで、泥棒への用心などをかねて、外側にもう一枚、ベネチアン・ドアすなわちシャッターがついているのである。

そうかんがえると、欧米流のドアとウィンドウとのちがいはわかるような気がする。ひるがえつて、わが国のばあいをみると、さきほどのべたように、玄関のガラス戸などというものは、以上の考えかたからすれば、<sup>⑤</sup>とても戸やドアとはいえないようなもので、欧米人の感覚からすれば、これは「ジャパニーズ・ウィンドウ」なのかもしれない。

#### 中略

がんらい日本では、外部とのしきりは戸であり、内部のまじきりは障子というようにつかいわけられてきた。戸は西欧の扉や壁ほどではないにせよ、いちおうはシェルター機能をもつものである。むかしから、戸をしめるときには「戸をたてる」といい、そのしまりかたのぐあいが悪いときには、「しめつけが悪い」といわずに「たてつけが悪い」という。そういういいかたからみて、それが一種のシェルターだったことがわかる。じつさい、いまでも農家では、雨戸に戸袋などというものがない家が多く、いちいちそこから戸板をはこんできて、鴨居と敷居のあいだにたてこんで雨戸としている。

ところが、<sup>⑥</sup>「ガラス戸」というものの、あるいは名称が発明されてから、話がややこしくなつた。欧米流にいうと、このようない、きやしゃな構造のもの

問1 X・Y・Z にあてはまる言葉の組み合わせとして、最適なものをおの中から選び、記号で答えなさい。

|   |     |     |     |
|---|-----|-----|-----|
| ア | X 戸 | Y 窓 | Z 窓 |
| イ | X 戸 | Y 窓 | Z 戸 |
| ウ | X 窓 | Y 戸 | Z 窓 |
| エ | X 窓 | Y 戸 | Z 戸 |

問2 A C にあてはまる言葉として、最適なものをおの中から選び、記号で答えなさい。

ア たとえば イ ところで ウ せいぜい エ つまり

問3 ①「もうひとつおもしろいもの」とあるが、それはなぜ「おもしろい」のか、次の空欄にあてはまる一語を本文中から抜き出さない。(完答)

A についていても、 B という名前がついているから。

問4 \* にあてはまる言葉として、最適なものをおの中から選び、記号で答えなさい。

ア 表面的 イ 本質的 ウ 感覚的 エ 経験的

問5 ④「そこ」とはどこのことか、十字以内で本文中から抜き出さない。

問6 — ⑦『ガラス戸』というもの、あるいは名称が発明されてから、話がややこしくなった」とあるが、それはなぜか、次の空欄にあてはまる一語を本文中から抜き出さない。

A としての B しか持っていないのに、 C という D が使われたから。

問7 — ②「欧米では、ウィンドウとドアとのあいだに、いったいどういう区別があるのだろうか」とあるが、

I この問に対する答えとして、最もよくわかる一文を、ここより後の部分からさがし、その初めの五字を答えなさい。

II ウィンドウとドアの区別を、日本ではどのように考えているか、それがわかる一文を、ここより前の部分からさがし、その初めの五字を答えなさい。

問8 — ③「発生的にはぜんぜんべつのものだ」とあるが、戸と窓はどのような目的のために発生したか、次の空欄に当てはまるように、五十字で本文中から抜き出さない。

戸 II 【 】 する目的。  
窓 II 【 】 する目的。

問9 — ⑤「とても戸やドアとはいえない」とあるが、それはなぜか、次の空欄にあてはまる一語を本文中から抜き出さない。(20点)

A などに対する備えとしては、あまりに B だから。

#### 四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

運動会の前夜になって、加奈子は急に「おとうさんもおかあさんも、明日来なくていいよ」と言いだした。両親が仕事や用事で見に来られない一年生といっしょにお弁当を食べなければいけないのだという。

「あとさあ、徒競走、サイターの組み合わせで、みんな足速いのよ。もうぜったいぶり決定だから、あんまり見られたくないっていうか、恥ずかしいじゃん、だから、ね、もういいじゃん、お弁当いっしょに食べられないんだったら来ても意味ないし、カッコ悪いところ見せたくないし。来年に期待してよ、ね」

テンポよく言う加奈子の言葉に、雄介はつい「わかった」と答えてしまったが、運動会を楽しみにしていた和美は不満そうに「一年生の子と食べるのって、カナちゃん一人だけなの？」と訊いた。

「一学期のクラス委員の子は、いちおうみんな先生に声をかけられたみたい。みんなは断ったんだけど、まあ、一年生の子も寂しいじゃん、やっぱ」

「でもねえ……」  
納得しきらない顔でうなずいた和美は、「あ、そうか」と声をはずませて加奈子に向き直った。

「ねえ、それ、生徒会の選挙のテストなんじゃない？」

「はあ？」

「だって、一年生の面倒も見られないようじゃ生徒会なんてできないじゃない。運動会終わったら、すぐ選挙でしょ、先生はそうやって向き不向きをテストしてるのよ。どう？ その可能性あるんじゃない？」

ミステリドラマの名探偵みたいに得意げに、勢い込んで言う。

だが、加奈子は「ないよ、そんなのぜんぜん」と A 返した。

「だって、保護者会ときも原先生言ってたわよ、カナにすぐ期待してるって、立候補すればぜったい当選するって」

「そんなの関係ないよ、せんせーが勝手に言ってるだけじゃん」

「女子の生徒会長って、創立以来初めてなんだってね」

問10 — ⑥「そうなった」とは、何がどうなったということなのか、「〜いうこと」に続くように、十五字以内で答えなさい。

「知らないってば！」

不意に、声がとがった。雄介が驚いて顔を上げる間もなく、加奈子は「あかし、立候補なんかしないもん」と声をさらに強めて席を立ち、そのままリビングを出ていった。

①とにかく、明日は来なくていいからね」

リビングのドアを閉める音と同時に、言った。「来なくていい」のではなく「来ないで」と封じめるような響きだった。

雄介と和美はそれぞれ、きょとんとした顔を一瞬ゆがめ、タイミングを合わせたように苦笑いを浮かべた。

②「まあ、ね、難しいよねえ」と和美が言った。

「中学生だからなあ」と雄介は返す。

いつもの、かたちだけの決まり文句だった。

沈黙が重さにならないうちに、雄介は「風呂、入ろうかな」、和美は「明日のごはん研いどかないと」、どうでもいいことをどうでもいい口調でひとりごとで、その夜の一家団欒の時間は終わった。

\*\*\*\*\*

加奈子は秋晴れの陽射しを浴びるグラウンドの真ん中で立ちつくしていた。ダンスの輪から、一人だけ、はじき出されていた。

「ちよっと、やだ……」

和美はうめき声で言っ、かたわらの雄介の袖をつかんだ。

「振り付け、ど忘れしたのかなあ」と笑う雄介の声も裏返りそうになった。

激しいリズムとうねるようなメロディーの音楽に乗って、加奈子以外は皆、手をつないだり脚を上げたり、しゃがんだり跳んだり、走ったり止まったりと、流れるように踊っている。加奈子は泣きだしそうな顔できよろきよろと左右を見まわし、肩をすばめ、顎をひいて、その場で小さく跳ねる。無意味に、けれどそれしかできないのだというふうに一所懸命跳ねる。

雄介は B 加奈子を見つめた。③ 目をそらしたかった。自分より、むしろ加奈子のために。だが、まなざしはグラウンドに吸い寄せられたまま、どうしても動かない。

「ねえ……なんなの？ これ、どういうことなの？」

和美の声が波打つ。雄介はなにも答えられない。喉がすばまって、ひどく息苦しかった。

「ど忘れなんかじゃないわよ、ぜんぜん踊れないじゃない、おかしいって、ぜったいおかしいと思わない？」

袖を強く揺さぶられた。

「あの子……だからあんなこと言ったのよ、ゆうべ。変だと思ってたのよ、なにかあると思ってたのよ……」

考えすぎだ。雄介はまた笑おうとしたが、今度は、頬はこわばったまま動かなかった。

加奈子の話を疑っていたわけではない。軽い気持ちでグラウンドに来た。運動会の代わりにデパートに出かけることにしていた。学校が通り道にあるので、プログラムで確認して、せっかくだから創作ダンスだけ見ていこうということになった。「約束破るとカナに怒られるかもな」と、ちよつとしたイタズラを仕掛けるような気持ちで観客席の最後列に座ったのだった。

加奈子は飛び跳ねるのをやめた。まわりが静かな踊りになったからだ。隣の子がゆつくりと腕を動かすと、ワントempo遅れて、加奈子も C それを真似る。

セツちゃんと同じだった。滑稽で、ぶざまで、かなしい姿が、何日か前に加奈子が話していたセツちゃんの姿に重なってしまう。

「なあ、セツちゃんって子、どこなんだ？」

雄介は和美を振り向いて訊いたが、和美はうわずった声で「さあ……」と返すだけだった。

エンディングにさしかかった。全員が一点に向かってダッシュして、円形のスクラムを組む。加奈子はみんなから遅れてスクラムに合流したが、どこにも入れ

た。

「ぜんぶ、嘘だった」

ぼんやりと虚空を見つめ、低い声で言う。

クラス担任の原先生は、昼休みに一年生と弁当を食べる話を聞くと D 首をかしげ、「高木さんが④ 自発的にやってるんじゃないですか？ 学校側はそんなこと言いませんよ」と答えた。

セツちゃんという転校生も、いない。先生はきよとした顔で「はあ？」と返すだけだった。

「おい、そういうの、先生に……」

雄介が口を挟むと、和美は目を合わせないまま「だいじょうぶだってば。」

E 訊いたから、先生もべつにカナがどうかは思っていないみたい」と答え、ため息交じりに「それよりね」とつぶけた。

原先生も創作ダンスのことが気になって、生徒席に戻った加奈子に声をかけたのだという。加奈子は屈託なく笑って、「ど忘れしちゃったんです」と答えた。原先生はそれで納得して、「本人も、もう一回やれたら今度は完璧なのに、って悔しがってましたよ」と和美に伝えた。

「あなたの言ったとおりよ。頭の中が真っ白になっちゃったんだね、あの子」

和美はつまらなそうに笑った。

雄介は黙って舌を打つ。頭の片隅に少しだけ残っていた⑤「ひよつとしたら」の可能性が、皮肉な話だ、加奈子がそう口にしたことで、粉々に砕け散ってしまった。

和美はゆつくりと息を吸い込み、吐き出した。唇が喉がひくついているのか、ひゅう、と細く頼りなげな息の音が聞こえた。

昼休みにグラウンドを一周したが、加奈子の姿はどこにもなかったという。仲良しの美紗ちゃんや早紀ちゃんは別の友だちといっしょに弁当を食べていた。

「親と食べてる子って珍しかったわよ、そういうところ、ウチって子離れができてないんじゃない？」和美はまたつまらなそうに笑って、初めて雄介の顔を見た。「いまから言うこと、気のせいだと思うから、本気で聞かなくていいからね」

ない。一人だけスクラムの外から、かたちだけみんなと同じように中腰になって、誰にもつながらない両手を広げた。

音楽が止まり、スピーカーから「プログラム九番、二年生女子の創作ダンスが終わりました」と女子生徒の声が響き渡る。

雄介は和美の手をひっぱって観客席から離れた。加奈子の顔を見たくない。両親がいることに気づいた瞬間の顔を、見たくなかった。学校の外に停めた車に向かって、立ち止まることなく足早に歩いた。和美は何度も後ろを振り返っていたが、そのたびに手を強くひいた。

「緊張して、頭の中が真っ白になっちゃったんだ」

歩きながら言った。「俺もよくあつたよ、ガキの頃」と付け加えて、こわばった頬を必死にゆるめた。

和美は黙って雄介の手を振りほどき、足を止めた。

「どうした？」

X

「やめとけ」

Y

「やめろ、そういうの、よくないって」

Z

和美は踵を返し、グラウンドに駆け戻っていった。

雄介は呼び止めなかった。和美の気持ちは痛いほどわかる。そして、和美のようにはできない自分のことを、少しずるい、と思った。和美の背中が人込みに消えるまで見送ってから、車に向かって歩きだした。逃げる足取りだと自分でも認めた。

\*\*\*\*\*

和美は夕方の早いうちに帰宅した。ぐったりと疲れきっていた。加奈子がまだ帰っていないことを確かめると、倒れ込むようにソファに座り、肩で息をついた。

「……わかった」

※「美紗ちゃんたちがごはん食べてるところに、別の子が二三人で来たのよ。ちよつと悪そうな女の子。しゃべってる声、聞こえたの、あいつ教室で一人で食ってたぜ……で、美紗ちゃんが、ちょーみじめじゃんて……⑥ わかんないよ、それ、ぜんぜん考えすぎだと思っただけど、とりあえずね、そういう……」消え入りそうになった声に、玄関のチャイムが覆いかぶさった。

和美の顔がゆがむ。

⑦「なにも言うなよ」雄介は短く言った。「知らん顔してるんだ」

ドアが開く音につづいて、「ただいまあー」と加奈子のはずんだ声が聞こえた。和美は答えない。雄介を見つめ、泣きだしそうな顔で首を何度も横に振る。雄介は小さくうなずき、下腹に力を込めて「おう、お帰り」とせいっぱいの声を玄関にかけた。

加奈子はスポーツバッグを提げてリビングに入ってきた。

「今日、げろ暑かったあ、死にそう」

校章入りのジャージの上着を脱いでTシャツ一枚になり、「おかあさん、ジュースジュース」と甘えた声で言った。昨日まで——いや、今朝「行ってきたーす」と家を出たときと、なにも変わらない。

和美は黙ってキッチンに立ち、冷蔵庫のドアを開けた。

雄介はゴルフ中継のテレビに目をやった。中年の——だから同世代の選手が、かんたんなパットをはずした。

加奈子はソファに座り、掌で顔に風を送りながら言った。

「まいっちゃったよお、今日」

「……なにが？」——キッチンから、かがんだ体を冷蔵庫のドアに隠して和美が訊く。

「セツちゃん。もう、サイテー、ちょーみじめ。ダンスの振り付けが変わったの、またあの子だけ教えてもらえなかったんだよ」

雄介はテレビを見たまま「ふうん」と喉を絞って返し、いやこれじゃだめだと思ひ直し、「へえ、なんだよ、それ、ひつでえなあ」とおおげさに笑ってみせた。

問1 — A — E — にあてはまる言葉として、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア さりげなく      イ 怪訝そうに      ウ そつけなく  
エ 呆然と      オ おずおずと      カ はつらつと

問2 — ④「自発的」と反対の意味を表わす言葉を、漢字三字で答えなさい。

問3 ※から始まる発言を次に抜き出してきた。この中に、和美以外の発言が二か所含まれている。その発言を出てきた順に正しく抜き出しなさい。

「美紗ちゃんたちがごはん食べてるところに、別の子が二、三人で来たのよ。ちよつと悪そうな女の子。しゃべってる声、聞こえたの、あいつ教室で一人で食ってたぜ……で、美紗ちゃんが、ちょーみじめじゃんて……わかんないよ、それ、ぜんぜん考えすぎだと思うんだけど、とりあえずね、そういう……」

問4 — ②「難しいよねえ」とは、どういう意味か、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 加奈子が、扱うのが難しい年頃だということ。  
イ 運動会に、二人そろって行くのは難しいということ。  
ウ 加奈子の気持ちを理解するのは、難しいということ。  
エ 母親の気持ちを分かってもらうのは、難しいということ。

問8 — ⑦『「なにも言うなよ」雄介は短く言った。『知らん顔してるんだ』』について、雄介がどのように言ったのはなぜか、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア いじめの事実をどうやって聞き出すか、まだ夫婦の間でよく話し合っていないかったから。  
イ 担任の先生から事情を聞いた和美が、嘘をついていた加奈子に聞いたですのではないかと心配したから。  
ウ いじめを隠していたのは、加奈子なりの訳があるのだから、その解決は加奈子自身に任せようと思ったから。  
エ いじめのことをいきなり聞いただして、取り返しがつかないことになるよりも、もう少し様子を見ようと思ったから。

問9 — ⑧「ペットボトルが、キッチンの床に落ちた」から何がわかるか、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 和美の、うそをつく加奈子に対するいらだち。  
イ 和美の、家族をなごませようとしている気づかい。  
ウ 和美の、加奈子の話に動揺している様子。  
エ 和美の、何もしない雄介に対して怒っている様子。

問10 — ⑤『「ひよつとしたら」の可能性』とはどういうことか、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 踊れなかった理由が、ど忘れしたのではないということ。  
イ いじめられているのが、事実であるということ。  
ウ いじめられていると思ったのが、勘違いだったということ。  
エ いじめから立ち直ってくれるだろうということ。

「ひどいよねえ」加奈子も笑う。「体育委員、なに考えてんだろ」和美はまだ冷蔵庫のドアに隠れていた。

「でね、セツちゃん、困っちゃったわけよ、もう、パニックちゃって、その場でぴよんぴよん飛び跳ねたの。あたしも参加してるんだぞ、これがあたしの振り付けなんだぞ、最初からそう決まってるんだぞ、って。人間、追い詰められるとなにするかわかんないよねえ」

加奈子は笑う。けらけらと笑う。「ねえ、おかあさん、ジュースまだあ？」と笑いながら言う。

⑧ ペットボトルが、キッチンの床に落ちた。

(重松 清「セツちゃん」による)

問5 — ③「目をそらしたかった。自分より、むしろ加奈子のために」とあるが、それはなぜか、次の空欄にあてはまる言葉を、指定の字数で、Aは本文中から抜き出し、Bは自分で考えて答えなさい。なおAは、抜き出した部分の最初の三字を答えなさい。

自分に A (十五字以内) を見られたことがわかったら、どんなに B (五字以内) と感じるだろうと、心配したから。

問6 — X — Z — にあてはまる言葉として、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア カナに訊いたりしないから、遠くから見ただけだから  
イ このまま泣き寝入りしたら、カナがかわいそうだもの  
ウ ……わたし、もうちよつとカナの様子、見てみる  
エ わたし、カナに直接聞いただしてみるわ  
オ だって、このままだと、カナが帰ってきてても、どんな顔していいかわからない

問7 — ⑥「わかんないよ、それ」について、何が「わかんない」のか、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 美紗ちゃんたちのところに来たのが、本当に悪い女の子なのかどうかということ。  
イ 教室で一人で食べていたのが、加奈子なのかどうかということ。  
ウ 美紗ちゃんが、本当に加奈子と仲良しだったのかどうかということ。  
エ 仲良しの美紗ちゃんが、本当に加奈子の悪口を言ったのかどうかということ。

問11 — ①「とにかく、明日は来なくていいからね」とあるが、なぜ、「来なくていい」と言ったのか、二十五〜三十字で答えなさい。

|      |
|------|
| 受験番号 |
|      |

|    |
|----|
| 氏名 |
|    |

|    |    |
|----|----|
| 得点 |    |
|    |    |
| 採点 | 点検 |
|    |    |

一

|   |
|---|
| ① |
|   |
|   |
| ② |
|   |
|   |
| ③ |
|   |
|   |
| ④ |
|   |
|   |
| ⑤ |
|   |

二

|   |
|---|
| ① |
|   |
|   |
| ② |
|   |
|   |
| ③ |
|   |
|   |
| ④ |
|   |
|   |
| ⑤ |
|   |

三

|    |    |    |
|----|----|----|
| 問6 | 問4 | 問1 |
| A  |    |    |
|    | 問5 | 問2 |
|    |    | A  |
| B  |    |    |
|    |    | B  |
|    |    |    |
| C  |    | C  |
|    |    | 問3 |
|    |    | A  |
| D  |    |    |
|    |    | B  |
|    |    |    |

|     |    |    |    |
|-----|----|----|----|
| 問10 | 問9 | 問8 | 問7 |
|     | A  | 窓戸 | I  |
|     |    |    |    |
|     |    |    |    |
|     |    |    |    |
|     |    |    |    |
|     |    |    |    |
|     | B  |    | II |
|     |    |    |    |
|     |    |    |    |
|     |    |    |    |
|     |    |    |    |
|     |    |    |    |
|     |    |    |    |
|     |    |    |    |
|     |    |    |    |
|     |    |    |    |

とくうと。

四

|    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| 問6 | 問4 | 問3 | 問1 |
| X  |    |    | A  |
|    |    |    |    |
| Y  | 問5 |    | B  |
|    | A  |    |    |
|    |    |    |    |
| Z  |    |    | C  |
|    |    |    |    |
| 問7 | B  |    | D  |
|    |    |    |    |
|    |    |    | E  |
|    |    |    |    |
| 問8 |    |    | 問2 |
|    |    |    |    |
| 問9 |    |    |    |
|    |    |    |    |

|     |     |
|-----|-----|
| 問11 | 問10 |
|     |     |
|     |     |
|     |     |
|     |     |
|     |     |
|     |     |
|     |     |
|     |     |
|     |     |
|     |     |
|     |     |
|     |     |
|     |     |
|     |     |

|    |
|----|
| 2点 |
|    |
| 3点 |
|    |